

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-78-2031
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場金融商品 東京証券取引所市場第一部
取引所 (証券コード: 3023)

各種手続きに必要な用紙のご請求は
株主名簿管理人のフリーダイヤル

0120-87-2031 (自動音声案内)

およびインターネットのホームページ

[http://www.chuomitsui.co.jp/
person/p_06.html/](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html/)

で24時間受付しております。

SECOND QUARTER BUSINESS REPORT

第108期 上半期報告書

平成21年4月1日から平成21年9月30日まで

株主優待について



- 500円相当のカーボンオフセット付きQUOカード「GREENSHOES CARD」を贈呈
- 「財団法人緑の地球防衛基金」への寄付(優待品相当金額の10% = 50円)
 - 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主の皆様を対象といたします。
 - QUOカードにカーボンオフセットの機能を取り入れることで、カード1枚につき、CO₂などの温室効果ガス約6kgの削減に貢献できます。

ホームページのご案内

ニュースリリースやIR資料等の最新情報をご提供しています。

<http://www.rasaco.co.jp/>



株主の皆様へ	1
上半期のポイント	1
トップメッセージ	3
事業内容	5
会社の情報・株式の情報	8
四半期財務諸表	9
株主メモ・株主優待	裏表紙



株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より当社事業へのご理解とともに格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第108期上半期（平成21年4月1日～平成21年9月30日）における営業状況をご報告させていただきます。

昨年秋以降の景気後退局面は、一部の製造業において底打ちの兆しを示しながらも、依然として経済情勢全般に深刻な影響を及ぼし続けています。当社事業においても、少なからぬダメージを受けておりますが、中長期的には再び成長軌道への復帰を果たしていけるものと確信しております。

当社は、今後とも豊かな社会づくりに貢献しつつ、企業価値の最大化を目指してまいります。

平成21年12月

代表取締役社長

井村周一

上半期のポイント

1 上半期は減収・減益でしたが、
期初計画は上回り落ち込みの幅を
予想以下にとどめました。

2 LMEニッケル相場の価格が
第2四半期より回復したことにより、
期初計画の売上高を
上方修正しました。

3 本社ビル建設用地を、
14億円で取得しました。

■ 上半期の業績 ■

この上半期における国内の経済情勢は、製造業における在庫調整の進展や政府の景気対策などにより、一部の製造業に回復の兆しが現れ、個人消費にも持ち直しの動きが見受けられました。しかし、全般的には企業収益の低迷と設備投資の抑制傾向が続き、雇用のさらなる悪化も懸念されるなど、厳しい状況で推移した半年間でした。

売上高：104億92百万円
(前年同期比44.6%減)

そうした中で当社は、積極的な営業展開を進めながらも、その成果を保守的に見積もり、当上半期の売上高については、前年同期比54.1%減となる87億円を計画していました。しかし、資源・金属素材関連におけるフェロニッケルの販売数量・単価が期初の想定を超えた結果、売上高は計画値を17億

92百万円上回る104億92百万円（前年同期比44.6%減）となり、大幅減収ながら落ち込みの幅を予想以下にとどめました。

営業利益：2億40百万円
(前年同期比47.3%減)

四半期純利益：1億33百万円
(前年同期比39.5%減)

同様に、営業利益・経常利益・四半期純利益についても、期初計画では全て0円を見込んでいましたが、この売上成果に加え、ワーマンポンプの部品などの販売が堅調に推移したため、大幅減益ながらも予想以上の黒字を維持しました。結果として、それぞれ営業利益2億40百万円（前年同期比47.3%減）、経常利益2億37百万円（同48.2%減）、四半期純利益1億33百万円（同39.5%減）となりました。

■ 通期の見通し ■

下半期の事業環境については、製造業における需要回復、民間設備投資ともに厳しい状況が続いていくものと予想され、公共投資も政権交代による先行き不透明感が広がっています。当社は、上半期に引き続き既存顧客との関係強化を図り、メンテナンス需要の掘り起こしなどを継続的に行っていくことで、需要の減少による落ち込みを極力カバーしていく考えです。

通期の業績については、期初計画を見直して、売上高を26億円、営業利益・経常利益を2億円、当期純利益を1億10百万円、それぞれ上方修正したことにより、下記数値を見込んでいます。

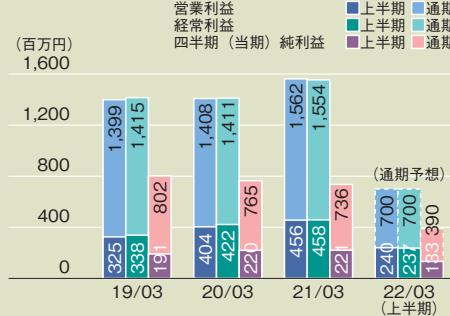
- 売上高 **23,000百万円** (前期比△27.5%)
- 営業利益 **700百万円** (前期比△55.2%)
- 経常利益 **700百万円** (前期比△55.0%)
- 当期純利益 **390百万円** (前期比△47.0%)
- 1株当たり当期純利益 **31.57円**

業績の推移

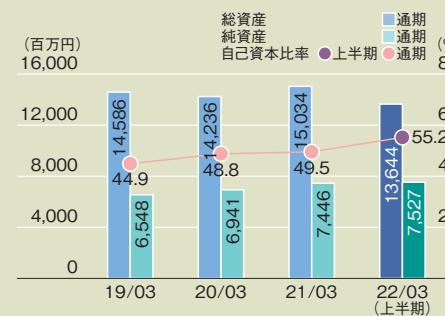
売上高／受注高



営業利益／経常利益／四半期(当期)純利益



総資産／純資産／自己資本比率



1株当たり配当金／配当性向



Top Message



トップメッセージ

豊かな社会に貢献するための 経営理念に今一度立ち返し、 さらなる企業基盤の確立と 事業の発展に努めてまいります。

代表取締役社長 井村周一

景気後退の影響による厳しい事業環境が続く中で、
当社は確実な業績回復と次なる成長の確保に向けた布石を打っています。
ここでは、当上半期における主な動きをお伝えします。

■ 本社ビル建設に向けて、固定資産を取得

今後の経営戦略につながる当上半期のトピックとして、今年8月、本社ビル建設用地の取得を決定したことが挙げられます。物件は、東京都中央区日本橋蛸殻町の土地602.22㎡で、取得価格は14億円です。当社は、ここに地上8階・地下1階の鉄筋コンクリート造による自社ビルを建設する計画を進めています。工事は平成22年6月頃までに着工し、平成23年の夏には竣工の予定です。

現在の本社ビル（東京都中央区日本橋箱崎町）は賃貸物件であり、これが近年、業容の拡大とともに手狭になってきました。今後、当社が将来の発展に向けて、さらなる事業成長を追求し続けていくためには、本社機能の一層の強化が必要不可欠であることに加えて、費用対効果の点で、賃借料の削減効果が自社ビルの新規取得に係わる経費負担を十分にカバーするとの判断から、これを新たに建設することとしました。

本社ビルが完成する平成24年3月期以降は、収益面における改善効果が現れてくるものと期待しています。また、十分

なフロアスペースが確保されることによる業務効率の向上を図れることや、東京証券取引所にも至近で、茅場町駅・人形町駅をはじめとする多くの駅や首都高箱崎ジャンクションなどへのアクセスが良い立地であることを考え、本社ビルの建設を決断しました。

■ 当上半期の取り組みと、環境テーマについて

現在、世界的な景気後退の影響により、足元の営業活動については非常に厳しい状況に置かれています。こうした事業環境を踏まえ、厳しい時期にこそ当社の営業スタイルである「提案型営業」を実践し、長年にわたり培ってきた顧客との信頼関係を一層強固なものにしていく必要があるとの考えから、当期は営業体制の見直しを進めています。

その一方で、積極的な営業展開と経営効率の改善に努めた結果、当初想定していた大幅な減収減益については、その落ち込み幅を一定程度抑制することができ、通期においてもこれを維持できるよう、社員一同一丸となって取り組んでまいります。

当上半期における各事業部門の概況について申し上げますと、資源・金属素材関連では、製鋼原料が想定を上回る販売数量・単価で推移しました。産機・建機関連および環境設備関連は、国内設備投資の急激な落ち込みで、厳しい販売状況となりました。（事業別の状況についての詳細は、p5～7をご参照願います。）

今、産業界全般において、CO₂排出量の削減を中心に、環境保全に対する取り組みの強化が重要な経営課題となっています。当社では、こうした環境関連ニーズの拡大に対応すべく、事業部門として展開する環境設備関連事業の他にも、資源・金属素材関連事業において、太陽電池向け金属シリ

コンの輸入販売などを行っています。これらの事業についても、直近の状況としては、景気後退による影響を余儀なくされており、成長が停滞しています。

しかしながら、温暖化防止をはじめとする地球環境の保全は、人類にとって喫緊の課題であり、環境テーマに関するさまざまな規制は今後、強化されることはあっても、緩和されることはあり得ません。我が国の鳩山首相が先のサミット開会式で述べた「CO₂排出量を2020年までに1990年比で25%削減する」という公約も、中長期的に当社への追い風となっていくと思われま

す。また最近の状況として、当社が取り組み課題としている「超臨界」「亜臨界」分野に対する注目が高まっています。今後は、これらの先進的な技術開発による成果を活かした環境設備について、営業をさらに強化していく考えです。

■ 株主の皆様へのメッセージ

繰り返しになりますが、当社の置かれている事業環境は、依然として厳しい状況が続いています。そうした中で当社は、「世界の一流技術商品と有用な価値ある資源を通して豊かな社会に貢献する」という経営理念に今一度立ち返し、さらなる企業基盤の確立と事業の発展に努めてまいります。

なお、この度の中間配当につきましては、1株当たり4円として実施させていただきました。期末配当は同じく1株当たり4円・年間配当1株当たり8円（配当性向25.3%）を計画しております。業績の状況を踏まえ、遺憾ながら減配となりますが、この利益還元計画については、必ず達成したいと考えております。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

資源・金属素材 関連事業

事業内容

- 各種原材料の輸入販売
- 製鋼原料の販売・各種物資類の輸出版売
- ミネラルサンズ・各種鉱産物の輸入販売

ジルコンサンドやフェロニッケルなどの鉱産物や製鋼原料、その他物資等の輸出入および販売を行う事業です。

主な商品・技術
ジルコンサンド
フェロニッケル
金属シリコン
クローラクレーン

営業の概況 前上半期 137億38百万円 >>> 当上半期 64億77百万円 (前年同期比52.9%減)

- 売上高は前年同期比で72億61百万円減少し、64億77百万円となりました。
- 受注高は前年同期比で70億23百万円減少し、66億76百万円となりました。

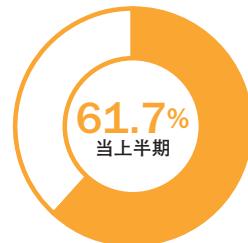
ジルコンサンドは、販売数量が前年を大きく下回りました。
フェロニッケルは、価格・販売数量ともに前年を下回りました。

ジルコンサンドの売上高は、前年同期比で10億82百万円減少し、11億32百万円となりました。
販売数量が前年同期比で52.5%、平均単価が前年同期比で97.4%と、景気後退により需要が減少したため、販売数量が前年を大きく下回り、大幅な売上減となりました。

フェロニッケルの売上高は、前年同期比で53億20百万円減少し、43億67百万円となりました。
販売数量は前年同期比91.2%、平均単価が前年同期比49.4%と、特に価格が大幅に前年を下回り、大幅な売上減となりました。

このフェロニッケルの価格については、ロンドンのLMEニッケル相場と連動しております。LMEニッケル相場は、昨年の下期に価格の大幅な下落の影響を受けました。なお、第2四半期については、回復基調となっております。

売上高構成比



売上高推移



主要商品の用途 [ジルコンサンド]

Q ジルコンサンドってなに？

豪州・南アフリカ・中国・東南アジア等に広く埋蔵されている天然鉱産物です。
弊社では豪州のジルコンサンドや粉碎されたフラワーを40年以上にわたり取り扱っており、お陰様で国内販売シェアはNo.1となりました。



Q どう利用されるの？

- ① プラズマテレビやブラウン管テレビのガラス原料として使われています。
- ② 他にはセラミックスの釉薬としても広く使われており、これはトイレや衛生陶器に姿を変えています。

その他にも、形を変え、様々な用途に使われています。

産機・建機 関連事業

事業内容

- 産業用生産ラインおよび水処理用各種流送機器類の販売
- マンホールポンプシステムの販売
- 各種小型建設機械・耐震管敷設用機器の販売
- シールド掘進機の販売およびレンタル

ポンプなどの産業機械の販売・設置・メンテナンス、および建設機械の販売を行う事業です。

主な商品・技術
ワーマンポンプ
ヒドロスタルポンプ
シールド掘進機
キールカッター

営業の概況 前上半期 40億79百万円 >>> 当上半期 31億98百万円 (前年同期比21.6%減)

- 売上高は前年同期比で8億81百万円減少し、31億98百万円となりました。
- 受注高は前年同期比で13億43百万円減少し、37億18百万円となりました。

産業機械は、ポンプの新規の販売台数の落ち込みなどにより売上・受注減となりました。
建設機械は、シールド掘進機など全般に落ち込み売上・受注減となりました。

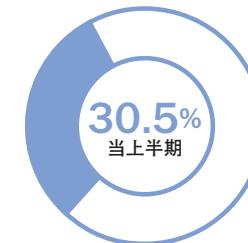
産機関連におきましては、主力のポンプにつきまして、特に新規の販売台数の落ち込みが大きく、部品・メンテナンスの需要の掘り起こしに取り組んだものの、売上・受注ともに前年を下回る結果となりました。また、民需と官需の状況につきましては、官需は比較的堅調に推移したものの、民需が非常に厳しい推移となりました。

個別の商品としましては、主力のワーマンポンプについては、売上ベースで、ポンプ本体の販売が前年同期比54.8%、部品・メンテナンスは前年同期比100.5%と、部品は前年並みとなったものの、本体の販売が大きく落ち込みました。

なお、ポンプ本体の販売については、販売単価が前年同期比92.5%、販売台数が59.3%と、特に販売台数が大きく落ち込みました。ヒドロスタルポンプにつきましては、売上ベースで本体の販売が前年同期比74.4%、部品・メンテナンスが前年同期比93.6%とこちらも本体の販売が大きく落ち込みました。

建設機械におきましては、主力のシールド掘進機が売上ベースで、国内向けのレンタルが前年同期比73.0%、海外向けの販売が前年同期比51.2%と、国内向け、海外向けともに苦戦いたしました。

売上高構成比



売上高推移



主要商品の用途 [ワーマンポンプ]

ワーマンポンプについて

昭和33年に販売が開始され、以来、弊社の主力製品となっております。メンテナンス性に優れ、耐食、耐磨耗ポンプで業界トップクラスのポンプです。



Q ワーマンポンプってなにに使うの？

酸性やアルカリ性などのあらゆる特殊な液体を送るために使われるポンプ。メンテナンスを行い、磨耗した部品を交換することによって、半永久的に使用することが可能です。

環境設備 関連事業

事業内容

● 下水汚泥・産業廃棄物処理施設向け高圧ピストンポンプの設計・施工および販売

● 水砕スラグ製造設備の設計・施工および販売

製鉄過程の副産物であるスラグをリサイクルするための施設、焼却灰の無害化・再資源化システム、および高濃度下水汚泥・産業廃棄物処理施設向け高圧ピストンポンプの設計・施工および販売を行う事業です。

主な商品・技術

水砕スラグ製造設備
(ラサ・システム)
プツマイスター
高圧ピストンポンプ
フェルバポンプ

営業の概況

前上半期 11億32百万円 >>> 当上半期 8億13百万円 (前年同期比28.2%減)

- 売上高は前年同期比で3億19百万円減少し、8億13百万円となりました。
- 受注高は前年同期比で50百万円減少し、6億12百万円となりました。

前期に受注した水砕スラグ製造設備のインド向け案件の売上を計上しました。高炉の建設・改修計画の延期等の影響を受けました。

水砕スラグ製造設備の売上高は、前年同期比で2億96百万円減少し、5億55百万円となりました。

設備本体の販売は前年同期比67.1%、部品・メンテナンスは前年同期比で55.5%となり、本体・部品ともに前年を下回る実績となりました。

なお、前期に受注したインド向け案件の売上計上を行っております。

また、受注面においては、製鉄所の高炉の新設・改修計画の延期等の影響を受け、厳しい推移となりました。



< 拡がるラサ・システムの需要 >

売上高構成比



売上高推移



主要商品の用途 [水砕スラグ製造設備 (ラサ・システム)]

Q ラサ・システムってなに？

廃棄処理されたスラグをリサイクルし、セメント原料や舗装道路の下部に敷く砂・砂利などの材料などとして利用できるように製品化するシステムです。



Q 今後の需要はあるの？

ラサ・システムは、山からの石灰石採掘を減らすことで、自然環境破壊防止に大きく寄与しています。また、水砕スラグは焼成する必要がないため二酸化炭素排出量を抑制します。こうして環境に貢献することは、今後の需要に繋がっていくと考えています。

会社の情報

◆会社の概要 (平成21年9月30日現在)

社名	ラサ商事株式会社
設立	1939年(昭和14年)1月10日
資本金	18億54百万円
本社	〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町8番1号 ヤマタネ箱崎ビル Tel.(03)3668-8231 Fax.(03)3669-1729
売上高	317億円(平成21年3月期)
従業員数	213名
会計監査人	監査法人大手門会計事務所
許可	特定建設業許可(機械器具設置工事業・電気工事業・水道施設工事業) 古物商許可

◆取締役及び監査役 (平成21年9月30日現在)

代表取締役社長	井村 周一	取締役	澤本 滋
代表取締役専務	田畑 威彦	取締役	中西 俊雄
常務取締役	古谷 利央	取締役	大岡 隆
常務取締役	伊藤 信利	常勤監査役	栗田 治彦
取締役	川久保 明	監査役	松尾 宰
取締役	鈴木 卓	監査役	多米田 裕行

(注)監査役 松尾 宰、多米田 裕行の両氏は社外監査役であります。

◆事業所 (平成21年9月30日現在)

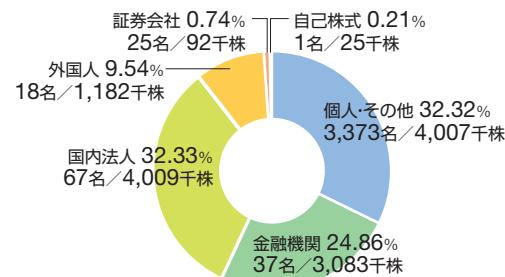
札幌支店	北海道札幌市東区北24条東15-4-10 第2日弘ビル
仙台支店	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-5-24 第一パークビル
横浜支店	神奈川県横浜市港北区新横浜3-19-11 新横浜タウンビル
名古屋支店	愛知県名古屋市中区錦1-11-20 大永ビル
大阪支店	大阪府大阪市北区堂島1-2-5 堂北ダイビル
広島支店	広島県広島市中区中町7-23 住友生命広島平和大通り第2ビル
福岡支店	福岡県福岡市博多区博多駅東3-6-3 福岡アーセオンビル
北関東営業所	群馬県高崎市あら町67-1 高崎あら町センタービル
静岡営業所	静岡県富士市永田町1-124-2 明治安田生命富士ビル
岡山営業所	岡山県岡山市北区表町1-7-15 パークスクエアSHOWA
高松営業所	香川県高松市亀井町8-11 B-Z高松プライムビル
札幌機械センター	北海道江別市工業町27-15
東京機械センター	千葉県習志野市実籾2-35-9
千葉機械センター	千葉県八街市八街い278-6
広島機械センター	広島県広島市安佐北区深川1-15-17
福岡機械センター	佐賀県神埼市城原字菅生534 (有)高倉エンジニアリング内
中国上海駐在員事務所	
米国ポートランド事務所	

◆株式の状況 (平成21年9月30日現在)

発行済株式の総数	12,374,474株
株主数	3,520名(自己株式除く)

(注)発行済株式の総数および当第2四半期末株主数には、自己株式分25,526株は含まれておりません。

◆所有者別株式分布状況 (平成21年9月30日現在)



◆大株主(上位10名) (平成21年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
大太平洋金属株式会社	1,040,000	8.38
ラサ工業株式会社	1,000,000	8.06
シティグループ・グローバル・マーケティング・インク	720,000	5.80
株式会社損害保険ジャパン	470,000	3.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	428,500	3.45
アトラスコプロ コンストラクション ツールズ エイビー	400,000	3.22
東京海上日動火災保険株式会社	360,000	2.90
日本生命保険相互会社	329,000	2.65
株式会社みずほ銀行	260,000	2.09
鴻池運輸株式会社	250,000	2.01

株式の情報

四半期財務諸表

四半期貸借対照表

科目	当第2四半期 会計期末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産	9,663	12,614
現金及び預金	2,488	3,067
受取手形及び売掛金	5,314	7,242
商品及び製品	1,633	2,008
仕掛品	4	32
その他	227	266
貸倒引当金	△5	△3
固定資産	3,981	2,419
有形固定資産	2,349	941
貸与資産(純額)	74	88
土地	575	575
POINT 1 建設仮勘定	1,435	—
その他(純額)	264	277
無形固定資産	93	108
のれん	30	37
その他	63	70
投資その他の資産	1,538	1,369
投資有価証券	662	494
その他	910	905
貸倒引当金	△34	△29
資産合計	13,644	15,034

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 会計期末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債	3,266	4,947
支払手形及び買掛金	2,312	3,625
短期借入金	321	287
1年内償還予定の社債	170	100
賞与引当金	155	212
その他	306	722
固定負債	2,850	2,640
POINT 2 社債	1,140	360
POINT 3 転換社債型新株予約権付社債	850	1,500
長期借入金	240	118
退職給付引当金	577	604
その他	42	57
負債合計	6,117	7,587
純資産の部		
株主資本	7,531	7,490
資本金	1,854	1,854
資本剰余金	1,612	1,612
利益剰余金	4,074	4,033
自己株式	△8	△8
評価・換算差額等	△4	△44
その他有価証券評価差額金	△5	△46
繰延ヘッジ損益	0	2
純資産合計	7,527	7,446
負債・純資産合計	13,644	15,034

四半期損益計算書

科目	当第2四半期累計期間 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日
売上高	10,492	18,954
売上原価	8,815	16,948
売上総利益	1,676	2,005
販売費及び一般管理費	1,436	1,549
営業利益	240	456
営業外収益	31	30
営業外費用	34	28
経常利益	237	458
特別利益	20	0
特別損失	2	59
税引前四半期純利益	254	399
法人税等	121	177
四半期純利益	133	221

(単位：百万円)

四半期キャッシュ・フロー計算書

科目	当第2四半期累計期間 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	705	525
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,565	△64
財務活動によるキャッシュ・フロー	282	903
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△578	1,355
現金及び現金同等物の期首残高	3,067	2,153
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,488	3,509

(単位：百万円)

POINT
1

建設仮勘定

本社ビル建設用地を取得したことにより、建設仮勘定を14億35百万円計上いたしました。

POINT
2

社債

前期末と比べ、7億80百万円増加いたしました。これは、新たに本社ビルを取得したため、その資金調達の一部として9億円の社債を発行したことにより増加したものであります。

POINT
3

転換社債型新株予約権付社債

前期末と比べ、6億50百万円減少いたしました。これは、株式への転換によるものではなく、当社が市場から転換社債型新株予約権付社債を購入消却したことにより減少したものであります。